

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	演習	2単位	
曜日時限			
前期： 金曜1限			
配当学科・学年			
文1、教育1、人間1			
担当教員			
村尾 敏彦、中村 英一郎			
添付ファイル			

授業テーマ	「ワークショップ」を体を動かすことや、グループワークに参加することを通して基本から学ぶ
講義概要	人権をはじめ人生や世の中の様々な問題について必ず『正解』があるわけではないでしょう。また、教え込まれただけの正しい答えは、本当の意味で自分のものになっていないのかもしれませんが。そのような中でこのワークショップ論では①体験する（参加者はグループワークやディスカッションを通して相互に学び合う）、②振り返る（自分の気持ちを言語化し、相手の言葉を傾聴する）、③一般化する（体験を分析し概念化する）、④応用する（それを経験知・経験則まで高め、次への行動を考える）を通して、人間の成長につなげます。
到達目標	(1) 実際に自分の身体と心を使って、楽しくワークショップの手法を学ぶことができる（幅広い教養） (2) グループ・ワークをとおして、他者と共感し自分と社会についての新たな向き合い方を見いだすことができる（自律的・主体的・共感的態度） (3) 社会の諸問題への深い関心を身に付け、自分と社会についての新たな向き合い方を見いだすことができる（実践力）
評価方法	振り返りシートへの記入等平常点（20%）と第14回の授業でのレポート（80%）
フィードバックの方法	・質問に対しては、次回の授業時に全体に向けて回答・説明する。 ・必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。 ・レポートについては、15回目の授業で、説明・評価し返却する。
評価基準	(1) 幅広い教養 ・（可）：振り返りにおいて、ワークの形式を説明することができる ・（優）：振り返りにおいて、ワークの形式を一般化し、体験の意味を社会化することができる (2) 自律的・主体的・共感的態度 ・（可）：他の人々との合意形成の話し合いに参加することができる ・（優）：自身の独自な見解を表明しつつ、他の人々との合意形成の話し合いに積極的に参加できる (3) 実践力 ・（可）：ワークの非日常の体験から、日常の自分と現実の社会・世界との関係を見つめ直すことができる ・（優）：ワークの非日常の体験から、日常の自分と現実の社会・世界との関係を見つめ直し、できることから自分を変容していくことができる
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	・毎時講義の中で、感じたこと考えたことを「振り返りシート」に自分の言葉で丁寧に記載すること。 ・教室で椅子に座って講義に耳を傾ける形式の授業ではありません。心身を活動して体験する形式の授業なので、人数が多すぎると授業として成立しません。そのため人数制限をします。授業履修できるのは、60名までです。2クラスに分かれて履修します。履修者数が定員を超えると、抽選を行う場合があります。
準備学習＜予習・復習の時間・内容＞	本科目の2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要です。 30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習を目安に取り組むこと 予習 ・内容に関わる情報収集をする 復習 ・「差別・偏見」「南北問題」「国民総幸福量」「他者」、あるいは心に残った事柄について、事後にインターネット等を利用して調べる
オフィスアワー等	授業中、授業終了後、あるいは、村尾については金曜日2時限目に個人研究室（1-234）で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	過去の受講生は、この授業で友人をつくることが多かったようです。生き方についてグループで話し合うワークがはいっているためでしょうか。

